

施設名	青梅市火葬場		
指定管理者名	富士建物管理・富士建設工業共同体（構成員）富士建設工業株式会社		
指定管理期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	担当課	市民課
設置目的	墓地、埋葬等に関する法律(昭和23年法律第48号)にもとづき、公衆衛生その他公共の福祉の見地から死体の火葬を支障なく行うため。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	担当課評価	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書 日報 月報	S	火葬件数増加に伴う火葬炉設備に対し、日々点検を履行しました。人員の交代はありましたが、業務の移行は円滑に進行しました。新型コロナウイルス感染症で亡くなられた故人様のご会葬の方にもお別れいただける準備を整え対応に当たりました。	S
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書 月報	A	報告業務を伴う事案は速やかに報告その指示に従いました。	A
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	現地調査 日報	S	火葬場施設区域内・隣接する都市地・墓地公園内におきましては、公園内を管理されている清掃業者様と連携を図り安全を確保いたしました。	S
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	事業報告書 月報	A	個人情報保護を遵守し、事務室窓口への火葬の問い合わせ等には細心の注意を払いお答えしております。報告は義務と理解し、速やかに報告いたしました。	A
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	日報 現地調査	B	業務記録は適正に作成しておりますが、動物の死体受付簿の一部に不備が生じました。	A
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	マニュアル 連絡網	A	新型コロナウイルス感染症で亡くなられた故人様の火葬執行は適正な時間枠を使用し、安全の確保に努めました。	S
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等を行っているか。	事業報告書 現地調査	A	防災訓練2回。火葬炉設備における緊急時対応のため大型ご遺体の火葬執行の手順書配置し、実務指導を実施しました。	S
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	火葬炉設備・火葬場施設区域内におきまして火葬炉設備チェックシート・火気類チェック表にて、日々管理しております。必要時修繕いたしました。	A	

事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告書 月報	A	公平性を重視しサービスの提供に努めてきました。コロナ禍におきましては安心・安全な環境を提供いたしました。	A
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	事業報告書 月報	A	火葬件数は増加しました、コロナ禍におきまして会葬者様は減少しております。	S
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート ヒアリング	A	葬儀者様とは電話を活用しコミュニケーションをとるようにしました。アンケートボックスに7件のご意見をいただき、内容を尊重致しました。	A
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	現地調査 ヒアリング アンケート	S	葬儀者様が青梅市火葬場利用された際の感想をアンケート用紙に「気持ち良く利用できました。」と感想をいただきました。施設利用の間充分な換気と複数箇所です手指消毒して頂ける環境を提供いたしました。	S
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート ヒアリング	A	5月7日 施設利用者様のアンケートに回答いただき「待室内の椅子を減らしてほしい」とのご意見を頂きました。翌日に34席から17席に変更、適宜椅子数を増減できるように対応しました。	S
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書 月報	A	新型コロナウイルス感染症により亡くなられた故人様の火葬執行におきましては感染予防を優先し、火葬執行に至るよう、事前打合わせにより安全の確保に努めました。	S
	その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業報告書 月報	A	施設利用された全ての業者様と公平性を保ち進行に努めました。樹林墓地焼骨受付業務と事務手続き業務を滞りなく遂行しました。	A

会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	帳簿類 現地調査	A	会計に関する帳簿、書類の整備及び保存は適正にされていた。	A
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	事業報告書 現地調査	A	動物火葬受付書の交付に伴う徴収金は施錠管理しております。	A
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	事業報告書 帳簿類	A	電気代の予算が5,956,500、決算が5,351,772。燃料費(灯油)の予算が7,217,100、決算が4,465,175と大きな開きが出ました。灯油については令和元年度に比べて火葬件数は199件増加したにも関わらず削減となった要因は使用量が約5.7%削減できたこと、灯油単価が年間平均でマイナス13.8円と安価であったことにあります。収支決算状況は赤字決算にはなっておりません。	A
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	決算報告書	S	経常利益率14.5%とプラスであるため。	A
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	決算報告書	S	自己資本比率が65.2%と30%以上であるため。	A
	流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。	決算報告書	S	流動比率が251%と100%以上となっているため。	A	

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数	記入欄
S	6	<p>市民の皆様へ「やすらぎをもって、安心してご利用いただける施設」であることを念頭に日々業務を遂行してまいりました。今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響が続く中、利用される皆様が安心・安全に利用できるように施設の換気や諸室の消毒、待合室の席数の制限など様々な対応策を実施してまいりました。また、新型コロナウイルスで亡くなられたご遺体の火葬は通常予約時間外に、受け入れ枠を設けて対応いたしました。今年度は新型コロナウイルスの影響で市民の皆様を対象とした見学会の実施はできませんでしたが、青梅市様と意見交換を重ねながら樹木葬実施に貢献できたのではないかと考えております。</p>
A	14	
B	1	
C	0	

2 市の評価、意見等

評点	数	記入欄
S	8	<p>協定や事業計画の仕様は遵守されていた。さらに、利用者満足度向上のために、葬祭業者の意見聴取や協力要請などにより、スムーズな火葬進行やサービス向上に努めていた。問題発生や、苦情等があった場合も、利用者の立場を最優先に考え対応する真摯な姿勢が見られた。</p> <p>また、光熱水費の削減のために、火葬炉運転方法の工夫に前年に引き続き努めていた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、仕様以上の取り組みを積極的に行っており、安全性の確保、利用者の立場を考えた管理を続けていた。</p> <p>斎場と火葬場は、富士建物管理・富士建設工業共同体として平成26年度から平成30年度までの前指定管理期間から引き続き、平成31年度から新たな指定管理期間として更新した。前指定管理期間以上に共同体として斎場と火葬場の連携をとって業務を行う姿勢が見られ、今後さらなる連携が期待される。</p>
A	13	
B	0	
C	0	